

<山行記録>

弥山・八経ヶ岳 (1,915m)

日 時：2012. 10. 24 曇のち晴

岡本 (単独)

7:50 行者還トンネル西口→8:28 奥駈道出合→8:49 弁天の森→9:12 聖宝ノ宿跡→9:46 弥山小屋→10:05 八経ヶ岳 (10分休憩) →10:30 弥山小屋 (昼食、11:00 発) →11:20 聖宝ノ宿跡→11:40 弁天の森→11:52 奥駈道出合→12:20 行者還トンネル西口

弥山へは、毎年数度登るのだが、今年はまだ一度も登っていない。涼しくなったことだし、久々に登ってみることにした。6時過ぎに家を出て約1時間半、行者還トンネルに到着。山々は大分紅葉が進んでいる。10月上旬の潤沢もそうであったが、今年の紅葉は去年に比べ大分綺麗だ。今日も天候が許せば紅葉が楽しめそうだ。

天気予報は晴れだったが、季節風の吹き出しのため、冬空の走りのような天気で、空はどんよりしている。思った以上に冷たい北西風が吹いている。ただ、寒い分、夏のように汗もかくこともなく、歩き易い。このコースは最初の尾根までの登りが一番きついのので、少しゆっくり目に歩く。最近、よく膝が痛むので、最初は準備体操を兼ね、足が温まるまではゆっくり歩く。やはり、年には勝てない。

40分程登ると奥駈道と出会う。少し天気が回復し、時々陽が差すようになる。しかし、風が冷たい、耳に痛みを感じる。この辺りで標高1,500m位だが、紅葉から落ち葉の時期になっている。昨夜からの季節風で大分葉



も散ったようだ。

この奥駈道には紅葉の美しい場所も多く、陽が差すとそこそこの紅葉が楽しめる。冷たい風を我慢すれば、今日もそれなりに景色も楽しめ、中々の山行だ。しかし、弁天の森辺りまで来ると、標高差にして僅か



100m程なのだが、既に殆ど落ち葉の世界だ。登山道も落ち葉に埋め尽くされ、所々で道を外しそうになる。



近畿最高峰の八経ヶ岳が見えてきた。山頂辺りには薄



っすらと白いものが見える。時々雪雲のようなガスが頂上付近を覆う。早くも、冬の到来を感じさせる霧囲気である。風も一段と強くなり、耳も一層痛くなる。足下には、うっすらと張った氷が残っている。そうこうしている内に聖宝の宿に着く。ここに理源大師像がある。平安時代の偉い坊さんらしいが、どうもこの像には今ひとつ品格が感じられない。(次頁写真)

ここから標高差 300m程を一気に登る。最初はつづら折りの急登、次に階段が続く。ピッチを崩さず、コツコツと登る。所々眺望が開け、大峰・台高の山々がよく見える。山々の紅葉も大分進んでいるようだが、生憎、空は雲が覆い、色が今ひとつ冴えない。

弥山小屋に着く。寒いので、このまま八経ヶ岳まで行くことにする。この辺りでは、既に木々に霧氷が付着し始めている。風も一層強くなり、寒さが凍みるが、防寒具を出すのが面倒だ、頂上まで我慢することにする。

頂上は、生憎、ガスが掛かっていて景色は殆ど見えない。まあ、いつものことだと思いつつ、取りあえず防寒具を出し、証拠写真を撮る。

ここでも思うのだが、折角世界遺産にもなったのだから、その最高峰の標識位もう少し格調の高いものにすればと思う。どうも街角の安っぽい看板のような感じだ。少しは弥山の看板を参考にしたらと思うのだが、仕方がない。少し行動食を取り、風も強いので小屋まで戻りお湯を沸かすことにする。

小屋前も結構風があり、コンロの防風用アルミも飛ばされそうになる。今日は、カップラーメンとアルファー米を持ってきたのだが、お湯を入れ、待つこと、ラーメンは3分、アルファー米は15分だ。一人で登るときは、この15分が中々我慢出来ない。また、寒い場所では、お湯も冷える為、少しましな状態で食べるには20分程度掛かってしまう。結局、今日も半分芯のあるお粥とご飯の間位の訳の分からない状態の飯を食う。コンビニおむすび3つの方がよっぽど旨い。(アルファー米のかやくご飯とおむすび3つとほぼ等価)

飯も食ったし、証拠写真も撮ったし、これで今日の用事も終わりとばかりに一気に下る。弁天の森手前で、70~80mのだらだらとした登りはあるものの、下りは快適だ。どんどん下って行く。しかし、皮肉なことに、下るにつれ益々天気良くなって行く。そうすると、紅葉の残っているところは陽に合わせ綺麗になって行く。少し悔しい気分と、名残を惜しみながらも、足に身を委ね、駐車場まで飛ばす。



以上